

FUKUOKA INNOVATION SIDE TENJIN

vol

01

ジェフ・チェン来日
日本×台湾 イノベーター対談

宮田裕章が歩く、福岡・天神
超集中から拡張へ、変貌を遂げる街で見た
イノベーション都市の理由

宮田裕章×ジェフ・チェン 日本×台湾 イノベーター対談

世界が注目するビジネス都市 福岡・天神の可能性

なぜ、天神は西日本随一のイノベーション都市になりえたのか。ビジネスのために必要な都市機能は何だろうか——。今回、データサイエンティストの宮田裕章氏と、台湾をはじめグローバルで活躍するジェフ・チェン氏による対談が実現。2人のイノベーターが見る、ビジネス都市としての天神の価値と可能性とは？

圧倒的な利便性と、ウェルカムな空気 ビジネスの吸引力に満ちた天神エリア

宮田 お久しぶりです。以前、神奈川で行われた国際会議でパネリストとしてご一緒しましたね。またお会いできて、しかもここ天神で再会でき、うれしいです。

チェン とてもよく覚えていますよ。日本の大学の方々はスーツ姿がほとんどなのですが、宮田先生は個性的な服装をされていて、強く印象に残っています(笑)。

——まず、お二人から見た「天神」の印象をお教えてください。

宮田 僕はよく学会で訪れるのですが、福岡には圧倒的な利便性と集積の強さがあります。空港から天神まで電車でわずか十数分と驚くほど近く、アジアのハブとして利便性に優れている。そして天神に来れば、さまざまな情報や人とつながることができます。

チェン 福岡はすごく活気がありますね。研究者や外国人にも開かれており、「どんどん来てください」というウェルカムな空気を感じます。

宮田 裕章

慶応義塾大学医学部教授。データサイエンティスト。データサイエンスなどの科学を駆使して社会変革に挑戦し、現実をより良くするための貢献を軸に研究活動を行う。福岡市健康先進都市戦略策定会議委員を務めた。



天神に来れば、さまざまな情報や人とつながることができる

—— 宮田 裕章

また、いま天神では「天神ビッグバン」という一大プロジェクトが行われており、天神という限られたエリアの中で、たくさんのビルを建て替えています。その構想にも驚きましたし、街をより良くつくり直したいという地元の人々の

気概を感じました。

——お二人の天神エリアにおける、現在・これからの活動を教えてください。

宮田 僕はヘルスケアを軸にしながらまちづくりに関わっているのですが、現在、福岡市と共同研究しているのが貧困課題の解決です。今の日本のシステムでは、平均的な生活像の人しか支えることができません。しかし、医療情報などのデータを活用することで、個々の状況に合わせた支援が行えるようになるのではないかと考えています。

チェン TSMCが熊本に半導体工場を建設したことが大きなニュースになりました。世界的な大企業が、熊本に工場を建設することがベストと判断した。それは、TSMCがサプライチェーンマネジメントシステムの中で、製造に重きを置いていることを示しています。

台湾の強みは生産力です。日本やアメリカ、ヨーロッパなどから依頼を受けてつくることには長けています。しかし、ゼロから何かを生み出したいという「イノベーションスピリッツ」には欠けるところがある。その点、日本には強い

イノベーションに必要な物理要素が、天神にはある

——ジェフ・チェン

ジェフ・チェン

国立陽明交通大学の校長室実務教授・アドバイザー。国立台湾大学 医学部・経営管理学部教授。京都大学 先端技術研究所客員教授、スタンフォード大学客員研究員などを兼任。学術活動と並行して、スタートアップ10社以上を設立。



イノベーションスピリッツがあります。台湾の生産力で、日本のイノベーションを加速させるお手伝いができるのではないかと考えています。

**東京でも大阪でもなく、
福岡・天神の理由
イノベーション都市の条件とは**

——福岡が新たなビジネスに適していると考え理由を教えてください。

チェン 福岡には産業・金融・大学の連携ができあがっていて、気さくにアイデアを話し合える土壌があります。基本的に日本の社会、経済や研究は縦割り型です。一人ひとり優秀なのですが、横のつながりが希薄な傾向にあります。しかし、福岡にはそういった壁がなく、シームレスに必要な協体制度を築くことができます。

今、私たちが考えているのはICチップの新しい活用法です。熊本にTSMCができて半導体がつくれるようになった。では、「その製品を受け取る未来の顧客は誰か?」と考えたときに、医療への適用にポテンシャルを感じています。半導体の医療現場への適用を推進するエコシステムをつくるのに、熊本から近くて協体制度がとれる福岡は最適です。

宮田 実は「Co-Innovation University(仮称)」という新しい大学をつくるプロジェクトを進めています。拠点は岐阜県飛騨市で、全国に十数カ所のサテライトをつくります。その有力候補の一つに挙がっているのが福岡です。

理由の一つは、福岡市がスタートアップを支援し、それを力に変えてイノベーションを起こそうとしていること。スピード感とエネルギーに満

ちあふれています。

もう一つは福岡の人が郷土愛に満ちていることです。自身の郷土愛を口にしない人は多くいますが、福岡出身の人は「福岡が好き、福岡に帰りたい」と声に出す人が多い印象です。私の研究室にも福岡出身のメンバーがいて、福岡のプロジェクトを率先して進めてくれています。そんな、地元を思う人々のエネルギーも福岡の魅力の一つではないでしょうか。

チェン イノベーションを起こすには、国や県などを超えて連携していくことが重要です。多様な人材が集まらなければイノベーションは起こりません。だから、その拠点には「近い」「便利」といった物理的要素が求められるのですが、天神にはそれがある。たとえば、台北から福岡に優秀な人材に来てもらおうと思ったら、2時間ほどのフライトで来ることができる。これは大きな強みであり、戦略的に重要な場所です。

**天神は、イノベーションが共鳴する
中心地へ**

宮田 僕は今、大阪・関西万博でシグネチャーパビリオン「Better Co-Being」をプロデュースしています。キーワードは「共鳴」です。未来をつくっていく強いイノベーションの中で、日本だけではなく、海外の人も含めた多様なコミュニティの人々と共鳴し

ながら、どう未来に向かうのかを考える。そういう意味では、都市が変わりつつも、多様なコミュニティを保ちながら進化している天神は、すごい一歩を刻んでいると思います。

チェン メガシティ構想の中では、大きな都市と都市の間で、人や資源の取り合いになると言われています。しかし、そのようなことは避けなければなりません。ビジネスに必要なのは人です。人がいなければ、どんなにいいアイデアも実現できません。若手からベテランまで、さまざまな人を集めることが大事です。

優秀な人材を集めるには、生活・ライフスタイルを一番に考える必要があります。知的産業に携わる人は、ライフスタイルにこだわり、快適な暮らしを求めます。幸せに暮らして働く。ワーク・ライフ・バランスを整えることを考えたら、福岡が一番ではないでしょうか。

また、福岡はパートナー企業の方が国境を越えて日本に来てくださるときにハッピーになれる場所でもあるので、世界とつながるビジネスを立ち上げるにはベストプレイスです。

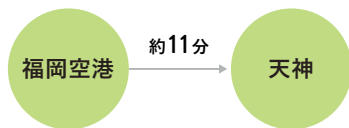


✓ Fact_1

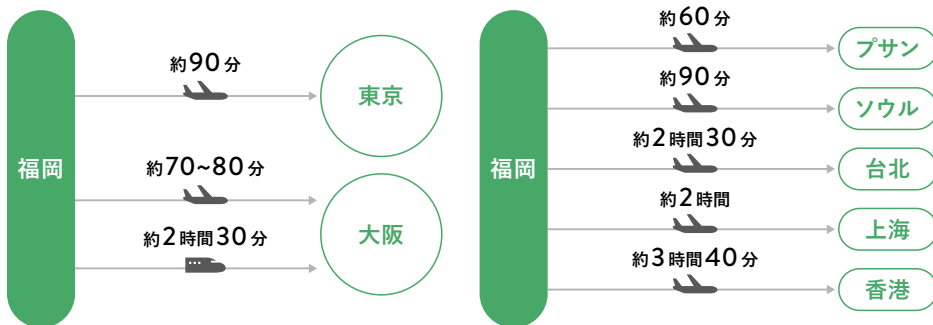
ビジネスに強い、コンパクトな立地

空港から都心部までの距離が近く、国内外の主要都市への直行便も多い。朝の通勤時間に出発し、都内や海外の拠点で昼のMTGに出席することも可能だ。

福岡空港から天神までのアクセス



福岡から国内外へのアクセス



※編集部調べ

宮田裕章が

歩く

福岡・天神エリア イノベーションの 源泉を探る

都市にはさまざまな側面があり、「体験」することで空間の本質を知ることができる。宮田裕章氏が、天神ビッグバンで再開発が進む2025年の天神エリアを視察。自らの足で歩き、分析する。

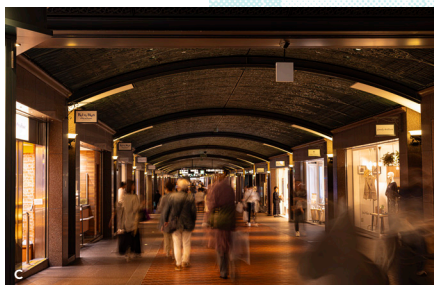


視察マップはP05

「歩きやすい街・天神」は、 都市として効率性の極みにある

福岡空港から地下鉄で約11分、九州最大の繁華街であり、多様なビジネスと文化が交差する街・天神。以前から「コンパクトシティ」と呼ばれてきた福岡だが、特に中心部では、半径500m圏に交通ターミナルや商業施設、オフィス、公共施設などが集まり、ビジネスと暮らしのあらゆる機能を備えている。さらに平坦な地形ということもあり、多くの人々が徒歩やシェアサイクル、路線バスなどで行き来する様子が見られる。この天神エリアを宮田氏は「歩きやすい街」と評する。

「街歩きが好きで、仕事で各地を訪れると、よくその街を歩いて空間として認識するようにして



います。徒歩に向く街、向かない街というのは存在するものですが、福岡は特に歩きやすいですね。普段の拠点は東京なのですが、東京は歩き回するには広すぎる。移動のしやすさは、都市としての大きな魅力だと思います」

特に宮田氏が驚いたのは「天神地下街」だ。地下鉄直結で、天神の主要施設に直接アクセスできる空間があることで、天候による移動の制限が大幅に緩和される。

「歩きやすい街」の背景には、天神の発展の経緯が関係している。江戸時代の城下町だった天神が、現在の「商都」として発展したのは高度成長期。1961年に「西日本一のデラックスビル」と謳われた「福岡ビル」、1976年に「天神コア」など、大型施設の開業が相次ぎ、そのにぎわいは「第一次流通戦争」と呼ばれた。その後、1989年の「ソラリアプラザ」の開業などで「第二次流通戦争」が、1990年代後半に「キャナルシティ博多」などの誕生で「第三次流通戦争」と、3度の開発の波が起きた。そしてこれらは、地下鉄や高速バスネットワークなどの交通インフラの拡充とタイミングが重なる。つまり、経済活動と交通アクセスの充実を同時に行いながら、人の動きを絶やすことなく、段階的に発展してきたというわけだ。これが「機能の集積」と

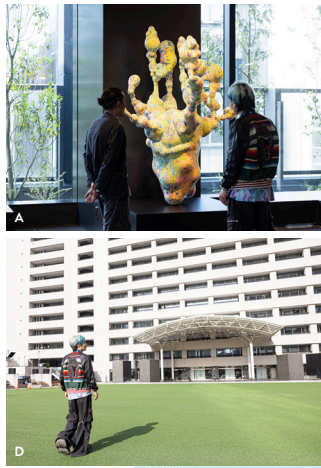
「利便性の担保」の両立につながっているのだろう。

「天神は、現代の都市の『効率性の極致』といえると思います。対談でチェンさんもおっしゃっていたのですが、このコンパクトな空間で、街の開発がどんどん進み、訪れるたびに新しい発見がある。新しい都市が、今まさに生まれようとしているのを感じます」

未来都市のキーワードは、 アートと公共 都市の「余白」をどうデザインするか

「効率性の極致」と天神を分析する宮田氏。そこからさらに、次の時代の都市のありかたを、天神の街に見ている。

「合理性は、資本主義経済のなかで依然として強力なドライバーであることは確かです。しかし、経済合理性だけを追求する時代から、もう次の時代への転換期に入っています。天神では大規模開発が行われていますが、都市のハードウェアの変革は時に暴力的で、オールドカルチャーを踏みつぶすことにつながる。次の時代の価値を、どう創造していくかが問われています」



超集中都市が 生み出す 「余白」とは

宮田氏が天神に見た、新しい時代の都市のヒントは二つ。その一つ目が「アート」だ。福岡市では、高島宗一郎市長のリードのもと、2022年に「Fukuoka Art Next」を立ち上げ、都市の中にアートを組み込む施策やイベントなどに取り組んでいる。今回視察した「ONE FUKUOKA BLDG.」も、館内に126点ものアート作品が展示されている。

「高島市長とは面識があり、海外のアートフェアでばったりお会いすることもありました。都市の魅力のひとつに『クリエイティビティ』を組み込むのは、非常に優れたアプローチだと思います」もう一つが「公共空間」だ。

「今、東京の一部エリアでは『お金を使わずに座ることのできる場所がない』という問題が起きて始めています。もちろん、商業施設というものは経済合理性を回さなければ持続することができません。しかしそれだけだと、例えば子どもたち

が遊ぶ場所や、地域の人々が集う場所というのが、抜け落ちてしまいます。コミュニティ内の信頼関係がなくなると、結果的に都市の魅力も減っていくものです。社会的弱者をふくめて多くの人が過ごしやすいところから、次の時代の文化が生まれていきます」

大規模開発が進む天神だが、その中心部には広場や公園が点在し、老若男女が集う光景が見られる。これから誕生する新しい天神にも、歩行者が歩きやすい地下・地上通路や、誰でも利用できる広場などが組み込まれる計画だ。

最後に、視察を終えた宮田氏に、天神という都市の未来の可能性について聞いた。

「天神は、すでに圧倒的な効率性の街でありながらも、未来の文化をどう紡いでいくかを見据え

て『余白』のある開発を進めています。今日、街のさまざまな側面を体験し、改めて素晴らしい街だと感じました。

近い将来、経済はひとつの都市だけで完結する時代ではなくなるでしょう。では、コンパクトな集積が強みだった天神はどうすべきか。僕はその答えが、他の都市との連携にあると考えます。国内だと、すでに『西のゴールデンルート』の取り組みが進んでいますが、西日本や九州の都市と連携し、全体として魅力を高めていく。国外では、天神は空港までのアクセスがよく、飛行機では東京よりも韓国へ行くほうが早いのが特徴です。西日本・アジアと広域な連携を行う中で、天神がどういうポジションを担い、独自の文化を紡いでいくかが重要です。天神は、東京とは異なる魅力があり、そして東京のオルタナティブとなる可能性を秘めていると思います」

視察エリアマップ



●A ONE FUKUOKA BLDG. ●B 新天町 ●C 天神地下街 ●D 福岡市役所前ふれあい広場

Fact_2

福岡市の企業誘致数は10年連続で50社以上

福岡市へ立地する企業の実績は10年間で安定しており、特にここ3年は60社/年を越す。多くの雇用も実現している。また、立地企業の半分以上をクリエイティブ関連産業が占めている。

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
立地企業数	52社	62社	58社	57社	57社	53社	50社	64社	65社	62社
クリエイティブ 関連産業	18社	33社	28社	40社	38社	38社	30社	41社	47社	34社
雇用者数	1,290人	2,213人	2,989人	1,041人	1,334人	1,058人	665人	2,600人	2,157人	651人

出典：『本社機能・成長分野』の企業立地実績（福岡市）

Fact_3

天神ビッグバン 今後の竣工スケジュール（予定）



- 2025年6月 天神住友生命FJビジネスセンター
- 2026年6月 (仮称) 天神ビジネスセンター2期計画
- 2026年12月 (仮称) 天神1-7計画

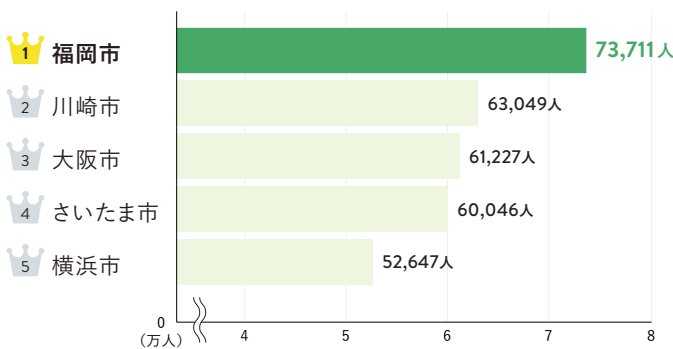
FACT SHEET

福岡市の人口増加数と若者の割合

福岡市では、現在も人口増加が続いている。
若者の割合は、全国の政令指定都市の中で、福岡市が最も高い。

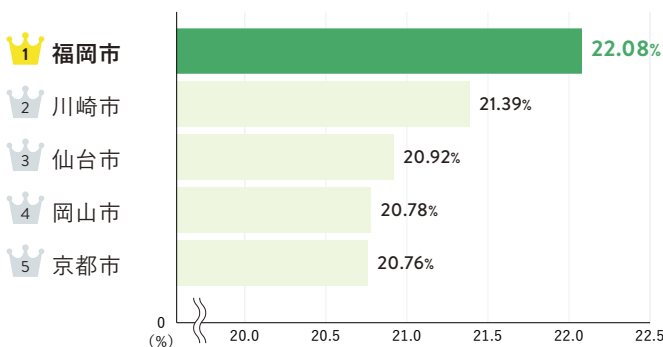
人口増加数が多い都市

(H27年10月～令和2年10月の増加数)



出典：「国勢調査」(令和2年10月1日)

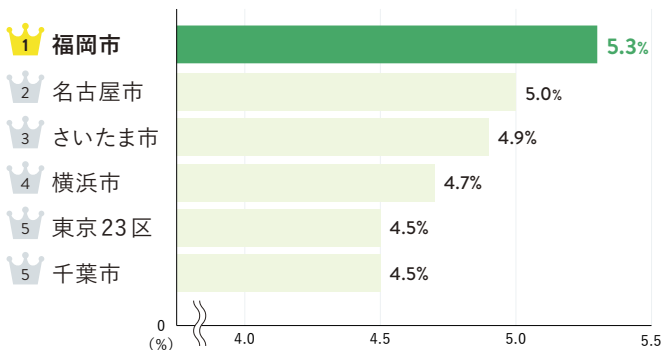
若者(10代・20代)の割合が高い都市



出典：「令和2年国勢調査」(人口等基本集計)より福岡市作成
※10～29歳の人口及び割合の算出については、年齢不詳を除いたもの

開業率日本一

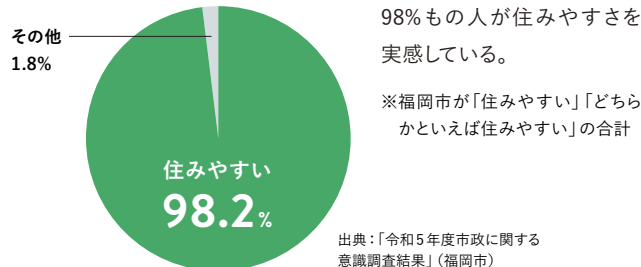
21大都市中、6年連続で開業率一位を記録。新たなビジネスに適していることを表している。



出典：福岡市経済観光文化局
※「雇用保険事業年報」(厚生労働省)における雇用保険適用事業所ベースで福岡アジア都市研究所が算出したもの
※各労働局とも職業安定所単位で当該大都市を含むエリアをすべて合計しており、政令市及び東京23区の行政区とは一致しない

住みやすい街

福岡市は住みやすいか



空港までのアクセス時間の短さ

日本国内との比較はもちろん、グローバルで見ても高い利便性を誇る。

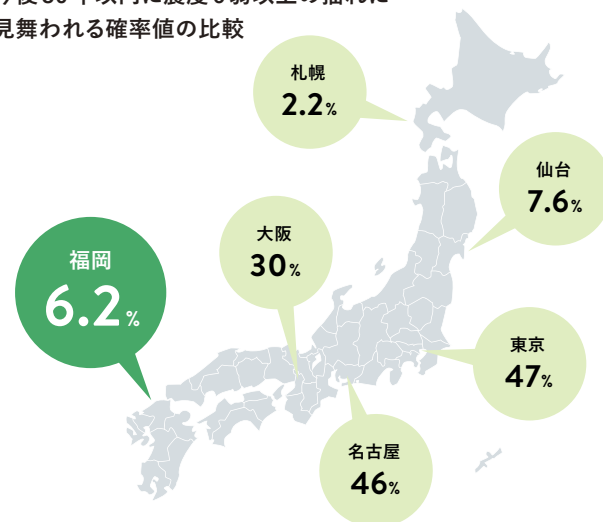
福岡	8分
シンガポール	20分
ニューヨーク	30分
東京	32分
北京	35分
ソウル	37分
ロンドン	48分
パリ	49分

出典：「世界の都市総合ランキング Global Power City Index YEARBOOK 2024」
(森記念財団 都市戦略研究所)

震災リスクが主要都市の中でも確率が低い

日本の主要都市の中で日本海側に位置する福岡市は、首都圏などの都市との同時被災の可能性が低い。

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率値の比較



出典：「全国地震動予測地図2020年版」
都道府県庁所在地の市役所(東京都は都庁)及び北海道の各振興局位置